

2026 AUTOBACS SUPER GT Round2 FUJI GT 3H RACE GW SPECIAL

Round 2 富士スピードウェイ

apr LC500 h GT

apr

Racing Constructor

apr

Racing Constructor

2026 AUTOBACS SUPER GT Round2

開催地：富士スピードウェイ（静岡県）／4.563km

5月3日（予選）

天候：曇り/雨 コースコンディション：ドライ/ウェット 観客数：33000人

5月4日（決勝）

天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：50300人

開幕戦から2戦連続で表彰台。タイトル争いへ、チーム力の底上げを誓う

スーパーGTにおいて、最多の観客動員を集めるゴールデンウィーク開催の第2戦富士。
今年は5月3日の予選日が3万3300人、5月4日の決勝日には5万300人のファンが詰めかけた。

世界屈指の1.4km以上におよぶ長いストレートが特徴的な富士スピードウェイは、「特殊なサーキット」と言われている。GT300では270～280km/h超のトップスピードからハードブレーキングで1コーナーに進入。結果に占める最高速の影響は大きく、一方で、高速コーナー区間のセクター2ではダウンフォースが必要であり、低速コーナー主体のセクター3ではメカニカルグリップが重視される。セッティングが難しいコースだ。

また、今大会は給油をともなう2回のピットが義務づけられた3時間レース。#31 apr LC500h GTは小高一斗と小山美姫に加え、第3ドライバーのチャーリー・ブルツという布陣で臨んだ。

公式練習／6位 5月3日(日)10:30～12:05

公式練習の走り出しは小高が担当。31号車は3月中旬の公式テストで富士に適したセットアップを見つけていたが、そこに開幕戦岡山で得たデータからアジャストして持ち込んだ。

しかし、気温22度、路面温度34度というコンディションに対して、持ち込んだタイヤとセットアップはバランスが良いとは言えない状況だった。小高はピットに戻りセッティングを調整。6周目に1分37秒301を記録するが、タイミングモニター上の順位は9番手。さらにピットインを繰り返して調整を続ける。

その後は14～17周を小山、18～22周をブルツがステアリングを握り確認しつつ、GT300専有走行の時間帯ではニュータイヤを入れて小山が走行。タイムは1分36秒962に更新して6番手。バランスはまだ良好ではなかったが、予選に向けてセットアップの方向性をつかむことができた。



公式予選 5月3日(日)

Q1 A/2番手 14:20~14:30

Q2/2番手 15:13~15:23

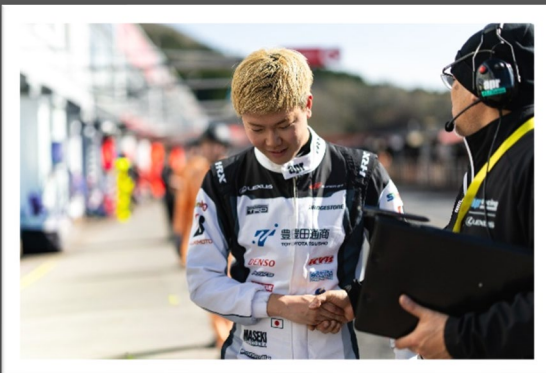
公式練習は晴天だったが、予選は曇り、気温は21度、路面温度は27度というコンディション。31号車は公式テストで良かったときのセットアップに近い状態に戻して予選に挑んだ。

Q1はA組に出走。ドライバーは小山だ。アウトラップからウォームラップを経て、まずは計測4周目にトップタイムとなる1分36秒130を記録。小山はさらに翌周もプッシュし、1分35秒713にタイムアップ。#61 SUBARU BRZ R&D SPORTが1分35秒285という驚異的なタイムをたたき出してリザルト最上位は奪われてしまったが、A組2番手でQ2進出を果たした。

Q1のA/B上位9台、計18台で争うQ2のステアリングは小高に託す。Q2直前には雨がパラつきウエット宣言が出されたが、コースコンディションはドライのまま進行した。小高は計測5周目に1分35秒062をマーク。ここでもやはり61号車が速く、コースレコードを塗り替える1分34秒314にはおよばなかったが、フロントロウスタートの2番グリッドを得た。

Q1 A組の小山、Q2の小高ともに、セクター1では全体ベストをマーク。ハイブリッドのモーターアシストによる加速力を活かし、リヤウイングを削って最高速を稼ぐセットが功を奏した。そのぶん、コーナーでのリヤのグリップは軽くなってしまうが、「尖ったセットアップ」をふたりが乗りこなしてくれた結果だった。





小高 一斗選手

僕たちのLC500h GTは富士の特性にマッチしていて、前戦の3位で32kgのウェイトを積んでいる状態でも、予選に向けては良いクルマを作れたと思います。僕自身のQ2のアタックも、クルマとタイヤのパフォーマンスは出し切れたかなと。ポールポジションを獲れなかったのは悔しいですが、61号車のタイムは素晴らしく、次元が違いすぎました



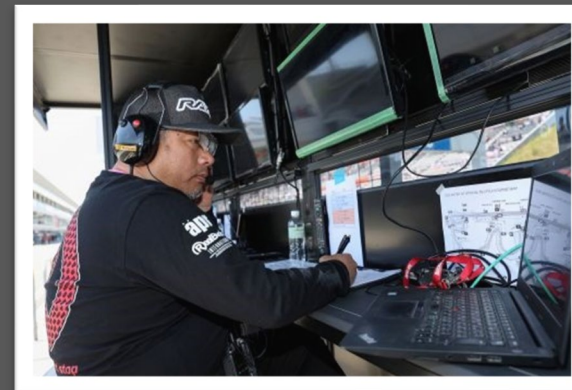
小山 美姫選手

公式練習ではマシンセットに時間がかかり、あまり走れていなかったのですが、イメージがないまま予選に行くのはちょっと怖さもありましたが、小高選手とチームが作ったクルマを信じてアタックしました。タイヤは予選の路面温度に合っていてフィーリングも良かったです。自分としては、もう少し走りをまとめられたかなという部分もありましたが、2番手というのは悪くないと思います



チャーリー・グルツ選手

GT300は初めての本戦出場になりますが、公式練習、FCY練習、サーキットサファリで僕が乗る時間を用意してくれて、チームメイトも本当に良いサポートをしてくれました。目標としていたタイムで走れたのも良かったです。クラス違いの混走レースは経験があるのですが、僕はピットストップとドライバー交代の経験がないので、そこは決勝前にもう少し練習したいと思います



金曾 裕人監督

良かれと思って持ち込んだセットのほとんどを外してしまい、公式練習はちょっとバタバタしてしまいメカニックにもドライバーにも負担をかけさせてしまいました。でも、予選に向けては公式テストで良かった状態に戻しつつ、小高選手と一発のタイムと最高速重視の尖ったセットを入れて、それを予選で小山選手がしっかりと乗りこなしてくれた。ブルツ選手もマイレージを稼ぎながら、タイムも悪くなかった。明日は2番手スタートですが、欲を出さず、しっかりポイントを獲りにいくレースをします！

決勝レース(107周)／21位 5月4日(日)14:06～17:07

決勝開始時の気温は24度、路面温度は43度。14時00分に静岡県警察車両の先導によるパレードラップが始まり、その後1周のフォーメーションラップを経て、3時間レースがスタートした。

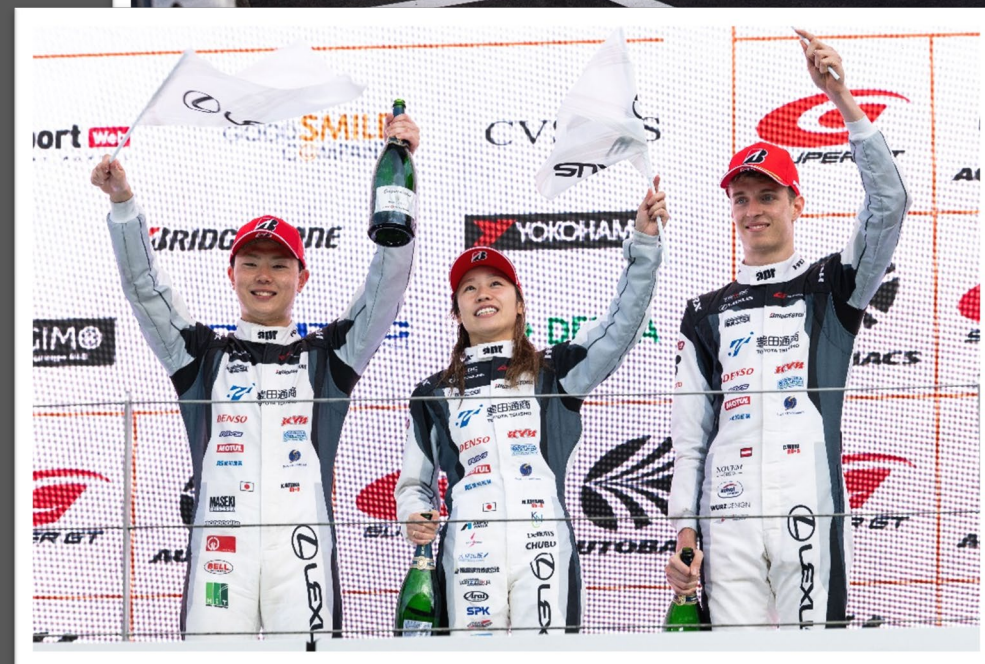
第1走者は小山。ポールスタートの61号車が2周目にはこのレースのファステストラップを刻んで逃げる展開となるが、小山もタイヤが発動してからはペースを上げていき、9周目には61号車の背後に迫る。その後は4台が数珠繋ぎとなった。

レースが動いたのは25周目。トップ争いが均衡するなか、61号車の左フロントタイヤがバースト。これで小山がトップに立つ。小山は長距離レースの戦略として燃費走行を続けながら、#56 リアライズ日産メカニックチャレンジGT-Rの猛追をしつづける。33周目の最終コーナーでは56号車にインを取られるが、ちょうどピットに入るタイミングでもあったため無理はせず、冷静にピットへと向かった。

第2ステント担当はブルツ。不安視していたドライバー交代をスムーズにすませたが、タイヤ交換でミスがあり時間をロスしてしまう。コースに復帰したときは17番手まで下がったがペースは安定しており、ライバルのピットが落ち着くと56号車の後方、2番手に順位を戻す。そして68周でピットに向かった。

最終ステントは小高。だが、ここでのピットでもタイヤ交換でミスがあり時間を失ってしまう。小高は10番手から追い上げる展開となり、コース上でのオーバーテイク、ライバルのピットインにより82周目に4番手に浮上。このとき前走車の#666 seven x seven PORSCHE GT3R EVOには10秒のタイムペナルティが出されていたため、チームからは666号車とのタイムギャップだけを伝え、小高はそのタイム差をコントロールすることに集中。結果、3位表彰台を獲得した。

これで31号車は開幕から2戦連続で3位表彰台。ドライバーランキング(小高／小山)は3ポイント差、チームランキングは2ポイント差の2位に浮上。第3戦マレーシア大会は、現在の世界情勢を鑑みて2027年以降への延期が発表されている。次戦は8月1～2日開催の第4戦富士。およそ3カ月の間にチーム力を底上げし、タイトル争いに挑む。





小高 一斗選手

LC500h GTはスタート直後のバランスはすごく良いんですけど、後半ステイントになるとバランスが崩れていく傾向にあります。開幕戦の岡山からはセットアップで改善できていますが、予選一発の速さから、決勝でのアベレージを保つという部分で、まだまだやるべきことがあるのかなと思います。今回もピット作業ミスが連発し、それがなければ開幕戦と同じく2位も見えていました。次に向けハイブリッドシステムの熱対策、サクセスウェイトが重くなることも含めて、しっかり対策していきますので、次戦も応援よろしくお願いたします



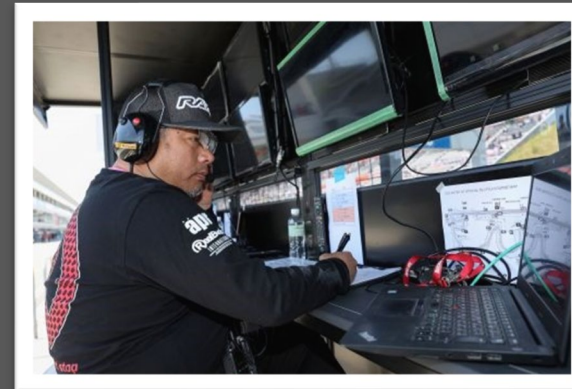
小山 美姫選手

昨年からスタートを担当させてもらうことが多かったので、フロントロウからのスタートでも緊張はありませんでした。今回は長いレースなので燃費やタイヤのことも考えつつ、チャンスがあれば狙える距離感に集中していました。61号車のバーストでトップに立ちましたが、自分の力で抜いてその位置を獲りたかった思いはあります。その後は後ろも迫ってきて、ミスができないなかでやれるだけのことはできたと思います。このイメージをさらに良いものに仕上げたいです。たくさんの応援ありがとうございました。



チャーリー・ヴルツ選手

開幕戦はチームを応援する立場でしたが、今回はチームの一員として表彰台に立て光栄です。初めてのドライバー交代もうまくやれたと思うし、長いステイントを担当して経験を積むことができました。自分の走りとしても、56号車から2~3秒差くらいで同じタイムで周回できていたので、良いパフォーマンスを発揮できたと思います。良いクルマを準備してくれたチーム、サポートしてくれたチームメイト、情熱いっぱいファンの方に感謝したいです



金曾 裕人監督

小山選手、ブルツ選手、小高選手の3人ともにパーフェクトでした。特に小高選手は、最後まで気が抜けない状態で、ペースが良い666号車から離されることなく表彰台を獲ってくれたし、そのクルマを作ってくれたのも小高選手。ただ、今回も2回のピットミスがあり、ドライバーの努力を無にしました。これについては次のレースまでに絶対改善しないといけないし、ピットのフォーメーション変更も必要かもしれない。我々のミスをドライバーがリカバーしてくれ感謝しかない。今回もドライバー3人のパフォーマンスと、応援くださった皆様でつかんだ3位ですね